

小児看護学総論 科目シラバス

単位:1単位	時間数:30時間	講師名:河原良重(実務経験有)
科目目標		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護を取り巻く社会のしくみについて理解する。 ・子どもの成長・発達と親子関係、家族の機能について理解する。 ・健康障害が子どもおよび家族に及ぼす影響について学ぶ。 	
(実務経験を活かした実践的な教育) 大学病院での臨床経験を活かし、看護の対象をとらえる視点を広げ、看護の役割と機能について授業		
授業回数		授業内容と学習方略
1回	小児看護概論	
2回	第1章 小児看護の特徴と理念 ・ 小児看護の目ざすところ ・ 小児看護の変遷 ・ 小児看護における倫理 ・ 小児看護の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「子ども」とは ・ 小児医療を取り巻く環境 ・ 小児医療から育成医療へ ・ 小児看護における看護師の役割 ・ グループワーク(レポート提出) 終講前
3回	第2章 子どもの成長と発達 ・ 成長・発達とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成長・発達の原則 ・ 発達段階と発達課題
4回	・ 成長・発達の進み方 ・ 成長・発達に影響する因子 ・ 成長の評価 ・ 発達の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成長・発達に影響する因子 遺伝的因子、環境的因子
5回	第3章 子どもの栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事摂取基準 ・ 発達段階別子どもの栄養の特徴と看護
6回	第4章 新生児・乳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体発育、運動機能、知的機能、情緒・社会性、 コミュニケーション機能
7回	第5章 幼児・学童 第6章 思春期・青年期の小児	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の獲得、養育及び看護 グループワーク(レポート提出)
8回	第7章 家族の特徴とアセスメント 小児臨床看護総論 第1章 疾病・障害をもつ子どもと家族の看護	<ul style="list-style-type: none"> 家族アセスメント ・ 疾病・障害が小児と家族に与える影響 ・ 小児の健康問題と看護
9回	第8章 子どもと家族を取り巻く社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児をめぐる法律と政策 (グループワーク等)
10回	第1章 小児看護の特徴と理念 小児と家族の諸統計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健、予防接種、病児教育
11回	第2章 子どもの状況に特徴づけられる看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来における子どもと家族の看護 ・ 入院中の子どもと家族の看護
12回		<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの入院環境 ・ 子どもの入院と小児・家族の看護
13回	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントに必要な技術
14回	第4章 子どものアセスメント	(ビデオ学習)
15回	テスト	

- 評価の方法
- 1 筆記テスト:95点 グループワーク・レポート点5点 合計100点満点
 - 2 授業態度:居眠り、私語、教科書等を忘れた場合は減点対象となる。
 - 3 欠課時の課題 : 授業で使用したプリントまたはノートの提出を必須とする

母性看護学総論 (第35期生) シラバス

単位：1	時間数：30	担当教員	藤村 珠美代 (実務経験有)
科目目標	1 母性看護の基盤となる概念を理解する 2 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。 3 女性のライフステージ各期における特徴とリプロダクティブヘルスに関する看護を理解する。		
(実践的な教育内容) 複数の総合病院での助産師としての臨床経験を活かし、母性看護学の理念と異議について授業を行う。			
授業回数	授業内容	授業方法	
1回 / 1回	母性看護とは 母性看護の特徴を理解する	講義 DVD	
2回 / 2回	母性看護の基盤となる概念と母性看護の機能と役割 母性の基礎となる概念を理解する	講義	
3回 / 3回	母性看護学領域における倫理 生命の尊厳や生命倫理について考える	講義	
4回 / 4回	人間の性と生殖の概念 人間の性と生殖の意義について理解する	講義	
5回 / 5回	母性看護の歴史的変遷と現状 母性看護の歴史・動向の変遷を学ぶ	講義	
6回 / 6回	母性看護を取り巻く社会の変遷① 母性保健の法律・施策・環境の変遷を学ぶ	講義	
7回 / 7回	母性看護を取り巻く社会の変遷② 母性保健の法律・施策・環境の変遷を学ぶ	講義	
8回 / 8回		施設見学	
9回 / 9回		施設見学	
10回 / 10回	ライフサイクルにおける形態・機能 女性生殖器の仕組みと働きについて学ぶ	講義	
11回 / 11回	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性① 思春期・成熟期女性の健康問題と看護について理解する	講義	
12回 / 12回	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性② 更年期・老年期女性の健康問題と看護について理解する	講義	
13回 / 13回	リプロダクティブヘルスケア①	講義 グループワーク	
14回 / 14回	リプロダクティブヘルスケア②	講義 グループワーク	
15回	終講試験(前期)		
評価方法	テキスト、参考書： 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 ・筆記試験(80点)レポート(20点) ・授業態度(欠席、居眠り、提出期限)		

授業計画書

科目名：母性看護学援助論Ⅱ	講義時期：10月～ 時間数：24時間（12回） 看護過程 6時間（3回）	担当講師： 藤村 珠美代 （実務経験有）				
テーマと授業内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある人とその家族の特徴を学び、対象に応じた看護を理解する。 2. 正常な妊娠、分娩、産褥の経過をたどる対象の看護過程の展開を通して対象の状態に応じた看護の方法を理解する。 		（実践的な教育内容） 複数の総合病院での助産師としての臨床経験を活かし、対象に応じた援助について授業を行う。				
授業の流れ（スケジュール・目標・テーマ・内容等の計画）						
第 1 回 正常な妊娠の看護ケア 第 2 回 // 第 3 回 正常な分娩の看護ケア 第 4 回 // 第 5 回 正常な新生児の看護ケア 第 6 回 // 第 7 回 正常な産褥の看護ケア 第 8 回 // 第 9 回 // 第10回 産褥期の代表的な異常 第11回 看護過程について 第12回 終講試験 第13回 褥婦の看護過程の展開 第14回 // 第15回 //						
受講上の注意： <ul style="list-style-type: none"> ・12回目で終講試験を実施します。その後、看護過程6時間があるため、時間数には注意して下さい。 ・技術演習がある場合は、連絡します。 ・3年次の領域別実習に活かせるように学習に取り組んで下さい 		評価方法： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">筆記試験</td> <td style="text-align: right;">90点</td> </tr> <tr> <td>看護過程</td> <td style="text-align: right;">10点</td> </tr> </table>	筆記試験	90点	看護過程	10点
筆記試験	90点					
看護過程	10点					
テキスト：周産期ナーシング 参考書：佐世正勝、石村由利子編著：ウエルネスからみた母性看護過程、医学書院 太田操編著：ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程、医歯薬出版 岡庭豊：病気がみえる 産科、メディックメディア						

授業計画書

科目名： 精神看護学援助論II	講義時期：7月12日～10月12日 時間数：30時間（15回）	担当講師：末吉 史典 先生 （実務経験有）
テーマと授業内容： 第1章 精神看護援助の基本と技術 第2章 精神疾患の理解と治療 第4章 入院生活から社会生活の継続までの看護 第5章 症状別アセスメントとケアプラン		（実務経験を活かした実践的な教育内容） 精神科病院での訪問看護師での経験を活かした授業を行う。
授業の流れ（スケジュール・目標・テーマ・内容等の計画） 第1章 精神看護援助の基本と技術 第1回目 患者－看護師関係 1) 人間関係論 2) 自己の振り返り 3) プロセスレコードの活用 第2回目 セルフケアの援助 1) セルフケア理論 ～ 9) 安全 まで 第3回目 生きる力の強さ 1) ストレンクス＜強み・力＞ 2) リカバリ＜回復＞ 3) エンパワメント 第2章 精神疾患の理解と治療 第4・5回目 脳のしくみと精神機能 1) 脳の部位と精神機能 2) 神経伝達物質と精神機能 3) ストレスと脆弱性仮説 4) 脳と免疫機能 5) 睡眠障害とサーカディアンリズム 第4章 入院から社会生活の継続までの看護 第6回目 精神疾患患者の理解 教科書 P172～183 ビデオ 癒しの揺りかご ～精神科医療～		

第7回目・8回目 安全管理 教科書 P184～202

ビデオ 目で見る精神看護 VOL1 精神科医療の現場

物品 拘束帯・吸引ノズル

第9回目 急性期から回復期 慢性期の看護 教科書 P203～222

第5章 症状別アセスメントとケアプラン

第10～14回目

DVD 精神科の症状と看護 第一部 (社) 日本精神科看護技術協会
パソコン使用・プリント使用

- ① 幻覚、妄想状態にある患者の看護
- ② 自閉状態にある患者の看護
- ③ 不安状態にある患者の看護
- ④ そう状態にある患者の看護
- ⑤ 抑うつ状態にある患者の看護
- ⑥ 自傷・自殺のおそれがある
- ⑦ 混迷状態にある患者の看護
- ⑧ 興奮状態にある患者の看護
- ⑨ 不眠状態にある患者の看護
- ⑩ 拒絶状態にある患者の看護
- ⑪ 痙攣発作のある患者の看護
- ⑫ もうろう状態にある患者の看護
- ⑬ せんもう状態にある患者の看護

受講上の注意：

評価方法：

テキスト：

参考書：

講義計画書

科目名 ; 看護総合演習		担当教員 ; 田中早苗 (実務経験有)		
目的	・既習の知識・技術・態度を統合し、臨床に近い状況下で患者に看護を適用できる実践能力を身につける			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例の情報を元に、既習の知識を活用して安全、安楽で、実施によるリスクを予測した看護計画を考える。 ・模擬事例の情報を元に演習計画の立案、実践（技術試験）、援助計画の追記、修正を行う。 ・模擬患者の状態やその場に即したコミュニケーションを図る。 ・模擬患者に対するコミュニケーションや看護技術の援助を振り返り、評価する。 			
(実践的な教育内容) 総合病院での臨床経験を活かし、臨床での実践能力の向上に向けた援助について授業を行う。				
回数	月日	場所	内容	備考
1	9月11日	教室	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・身だしなみチェック ・物品、作業確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時の大腿骨頸部骨折の看護過程の事例資料 ・援助計画記入方法資料を持参
2・3	9月27日	演習室 教室	<ul style="list-style-type: none"> ・本（基礎・臨床看護技術）を元に ・グループ、演習するごとに分かれ演習する。 ・4号計画立案 	3回目に1号の書き方 確認説明 4号の書き方 説明 宿題とします
4・5	10月21日	演習室	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の書いてきた4号を基に演習する ・グループ、演習するごとに分かれ演習する。 	5回目 演習終了後1号と4号 提出
6回		教室	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の追記・修正について ・4号計画立案、修正 	
7、8回		演習室	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 	7回目の講義終了後に提出
9回			<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ模擬演習 ・グループワーク 	
10回 特活		教室	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 	特活終了後に提出
11回 特活		演習室	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 	
12回 特活			<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ（コミュニケーションを中心に） 	
13回 特活			<ul style="list-style-type: none"> ・演習 ・学生間でのタイム測定 	
14回	12月13日		<ul style="list-style-type: none"> ・試験のオリエンテーション ・演習する準備 	
15回 テスト	12月17日		<ul style="list-style-type: none"> ・試験 	
受講上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールは変更になる場合がありますので、場所の確認は、朝、視聴覚委員が教員に確認してください。 ・演習の講義開始時間には、白衣に更衣し、教室で点呼を取り、教員に指示を仰いでください。 ・週番は最後の、教室の戸締り、消灯、冷暖房をしてから、移動してください。 ・白衣を忘れたら、演習室に入室できません ・移動は速やかに、静かに行動してください。 ・提出物は、提出時間に、全員の協力のもと、書記の方が学籍番号順に並べて教務室に持参して下さい。 ・書記の方は、提出時間は厳守のこと、時間内に提出できない人を待ち、時間に提出なければ全員が提出遅れになります ・物品の取り扱いには十分に注意し、破損があった場合は、個人またはグループ全員で弁償して頂くことがあります ・物品の使用後は、きれいに（洗えるものは洗い）元にあった場所に直す。 				
評価				
出欠状況	欠課（3点）、遅刻（2点）			
身だしなみ	身だしなみ基準に違反すれば、1つにつき3点減点			
態度	演習（特に私語、ベッドに座るなど）、講義態度（2～3点）			
提出物	提出期限遅れも時間遅れ1点、日内遅れ3点			
技術試験				